

フローリング・巾木 標準施工要領書



テーマ
『施工品質の均一化を目指す』

株式会社 ツーケン工業

1 乗り込み準備 書類の確認をしましょう。

施工要領書	仕様の確認	フローリング材の施工説明書に沿っての施工。
断面図	床構成の確認(床厚)	
カラーテイスト表	フローリング色の確認	
床見切り設置箇所図面	床見切り設置場所の確認	
巾木の形状	壁とのクリアランス確認・フローリングとの接地面確認	
仕上げ表	フローリング施工箇所の確認	

2 使用釘の選定

床暖部：38mmフローリング釘もしくは38mm幅広フローリングタッカー使用(マックス11mm、その他メーカー9mm)

一般部：38mmフローリング釘もしくは38mm幅広フローリングタッカー使用(マックス11mm、その他メーカー9mm)

ダミーベニヤ スクリュー釘32～38mm使用。

※上記は基本であり必ず床厚を確認のうえ選定の事。

※4mmフローリングタッカーは、材料の特性を理解し選定せざるを得ない場合、使用可とする。

床鳴り発生率が非常に高いため施工に注意が必要。

※短手裏に打ち込める事が可能な限り釘を打ち込む。



2 使用接着剤/接着剤塗布範囲

基本は、ノリ釘併用施工とする。 ツーケン工業指定接着剤のみ使用の事。(その他メーカー使用不可)

一般部： 長手にライン引き (かぶせ見切り前 不要)

床暖部： 小根太に延長線上へ塗布

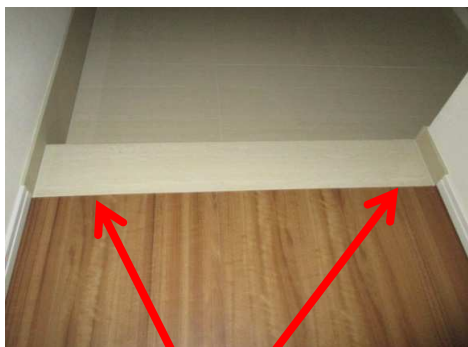


接着剤でフローリングを汚さないように注意の事！！

万が一接着剤がついてしまった場合、指定薬剤(ブルズ・汚れおとしま専科)にて拭き取る事！！

3 突き付け部

チリを1mm~2mmとする。均等にする事。
コーキング処理は0.3mmまでの隙間とする。



チリは、均等に！！



隙間は、
コーキング処理が可能な隙間⇒0.3mm
までとする。0.3mm以上の隙間は再加工。

注：施主仕様により突き付け部、隙間確保(薄いカード1枚)の場合あり。

4 壁周りの隙間

木巾木の場合、壁周りの隙間は2~3mm程度とする。極力均等な隙間とする。
ソフト巾木の場合、壁周りの隙間は1mmとする。極力均等な隙間とする。※出隅注意



極力均等な隙間！！



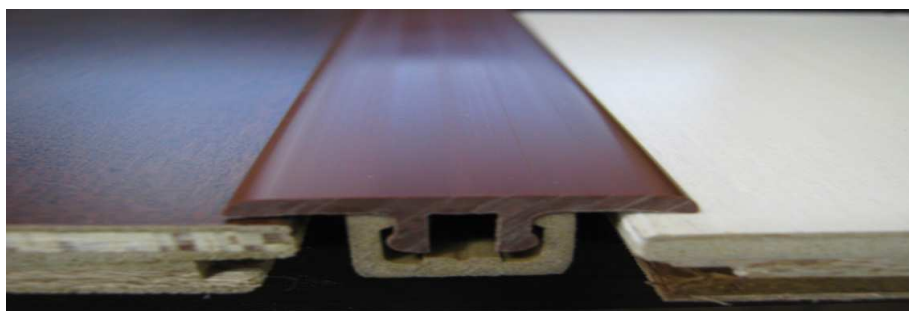
隙間は、
コーキング処理0.3mmまで！！

※壁とのこすれ音防止。遮音性能の低下防止。

要注意事項

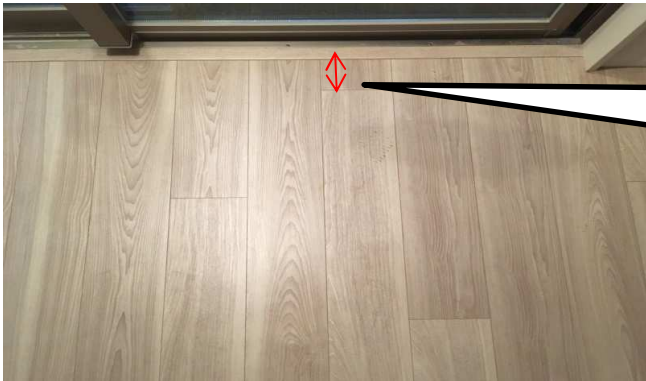
5 床見切り設置個所

「床見切り設置個所図面」を確認の事。
かぶせ見切り材設置個所→受け材とフローリングクリアランスを2mm~3mm確保の事。
※設置個所の間違いを無くすこと。 要注意事項



6 最小寸法

フローリング短辺最小寸法は100mmまでとする。但し長辺最小寸法は状況による。



短辺最小寸法は、100mmまでとする。

7 木枠切断

木枠切断時、芯を残しフローリング差し込みができる程度とする。

※フローリング厚 $t=12\text{mm}$ 以上、切断しない。木枠との隙間を発生させない事。要注意事項



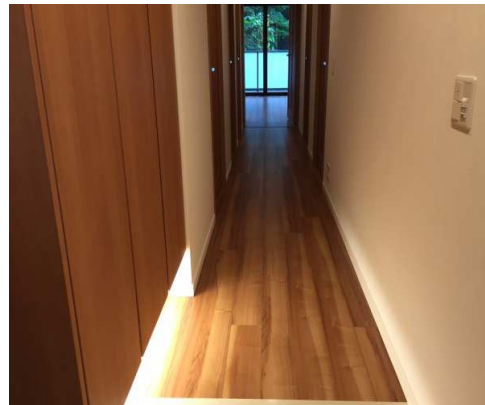
切断しすぎないように！！

注：施主仕様により枠下隙間指定（薄いカード1枚分）の場合あり。

8 美観

フローリング乱貼り仕様となるため短手目地は極力ちらす事。

割り付け時すべての壁の曲がりを確認する事。美観上、問題が無いか確認する。



短手の目地が階段の様にならない事。

部屋に入った印象は、廊下の美観が重要視されるため短手目地の配置に注意！！

9 木巾木工事

※フローリングとの接地面の隙間について確認の事 要注意事項

使用釘:ピンネイル15mm

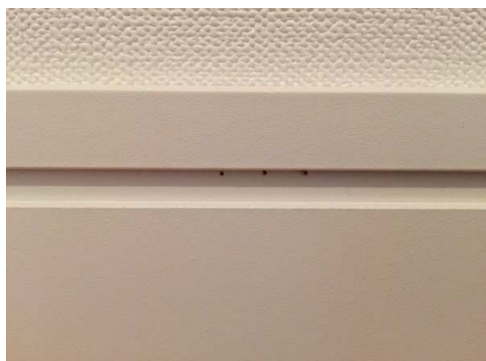
出隅:トリマー加工とする

クロスと巾木の隙間、入隅の隙間⇒極力隙間なく施工する



フローリングとの接地面に隙間有り施工の場合:
現場ごと隙間を何mmに設定するかを統一する。
試し施工をし元請けに確認の事。(美観)

フローリングとの接地面無し施工の場合:
フローリングの不陸を拾いやすいため隙間が発生
してしまう。確認しながら取り付ける。



10 掃除・木屑

クロス完了後のフローリング施工となるため、加工場・入隅・枠廻り等に木屑が入り込む事が問題視されている。よって加工場の養生、施工後の掃除は徹底する。

クロスに入り込んだ木屑はすべて撤去する。

又、フローリングに関しては施工後のモップ掛けまでとする。



クロス材に木屑が、入り込まないように養生材
を用意する事。

加工場の清掃時、エアにて壁の清掃も実
施する事。

フローリング施工完了後、モップ掛けをする事。

最終確認！！

※勘違い・チェックの見逃しを気づく事ができる最終確認作業！！

施工完了後の清掃を徹底して下さい。
残材を残さないようにしましょう。

自主検査を実施し丁寧に記入しましょう。